GRAND COMPANION

5

ぐらこん

♣同人誌優秀作品集

COM 9月号 付録

COM9月号　第2巻9号　付録　昭和43年9月1日発行（毎月1回1日発行）　昭和41年12月9日国鉄東局特別扱承認雑誌第2506号

イラスト／**向後つぐお**（「小さな仲間」所属）

でもいじわるな
悪魔の大王が
城と人とにまじな
いをかけたのです。

（武蔵野漫画研究会）

嵐の夜にも
老婆は
ひとり………

ヒュウオオオオ
オ オ

気のあうのは寂しそうなネコが一匹

乾いた鼻の熱を見る

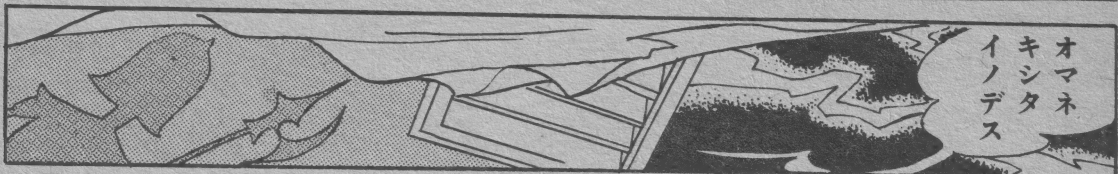
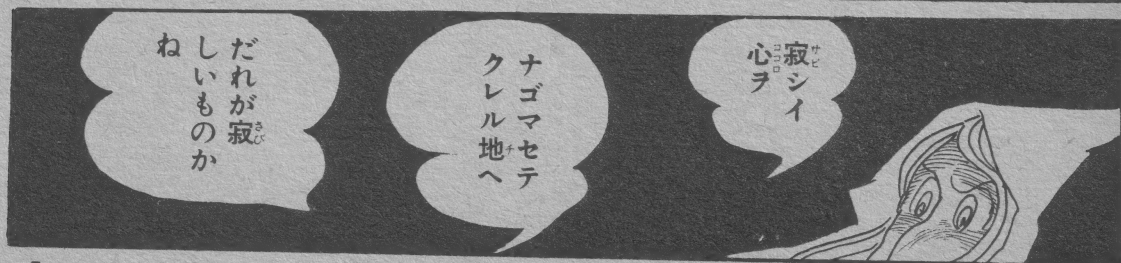
ヒュー
ガタ
バタ
フッ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
だれじゃい
かってに
はいってきた
のは？
ガタン
ハジメ
マシテ
ガチャ
ユウレイ
だとでも
いうのかね
ほお
ほっほ
ほ

こわがって
ほしいのかい
わたしゃ
これでも
魔法使い
なんだよ
そらっ
カラーン
わたしゃ
なんでも
金に変える
ことができる
のさ
古びたつぼで
あろうと
剣であ
ろうとね
デモアナタハ
肉ヲロヘ
ハコベナイ

魔法ガアナタニイジワルシテ
ソノ肉マデヲ金ニカエルカラ

ソレハアナタガ

金ノ心ヲ持ッテイナイカラ

キザなことおいいでないよ
ユウレイのくせして
なんのコンタンだね　いったい

オマネキシタイノデス

寂シイ心ヲ
ナゴマセテクレル地へ
だれが寂しいものかね

モシ金ノ心ヲ持ツコトガデキルト
イッタラ？……
わたしゃネコと遊ぶのが一番さ
おう
どうしたのじゃ
ゴロゴロ
ネコよ
私のネコよ
この嵐の中をどこへ
いくんじゃ！
ネコハユウレイ山ノ古イオ城ヘ
イクノデス
ソシテソコデハ
金ノ心ガアナタヲマッテイルノデス

フン
うまいこと
おびきだし
よって

古い城など
どこにあると
いうんじゃ

小さい
妖魔のこびとたちが
わたしたちの
パンとベーコンを
盗みます
テープおそまわしの声の感じで

な
何じゃい
この気味の
わるい声は
!?
こびとたちはミルクから
生クリームをぬきとって……
ふたを明けっぱなしに
していくので
残りはネコがしゃぶります

イミノナイコトバ
HE
ゴロゴロゴロ
PYA

GŪ

ガッ
ゴ心配(シンパイ)ナク
アレハ死神(シニガミ)タチノタワケタ歌(ウタ)
ヒョオオォ
ガッ
ガッ

キョウハアノユウレイ山(ヤマ)ノ古(フル)イ城(シロ)ニ死神(シニガミ)タチノ集(アツ)マル日(ヒ)ナノデス

フン
おまいさんもその同類(どうるい)かね?

ワタシハオ城(シロ)カラノオ使(ツカ)イデス……

ギギギー

コノオ城ノ
伝説ヲゴゾンジデスカ

死神ノ集マル嵐ノ晩ニ
金ノ心ヲ持ッタトキ……
魔法使イノ老婆ガ……
コッ
ガタガタ

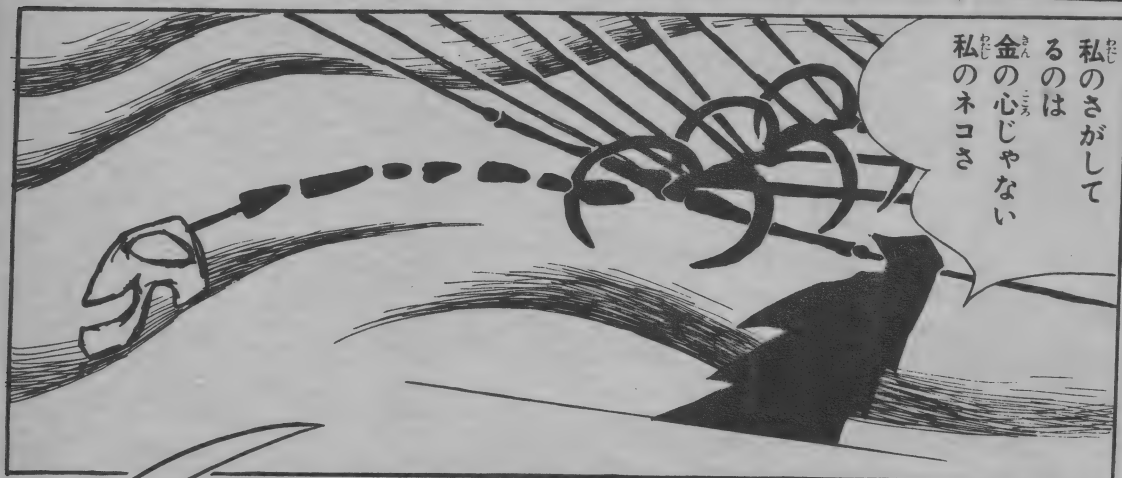
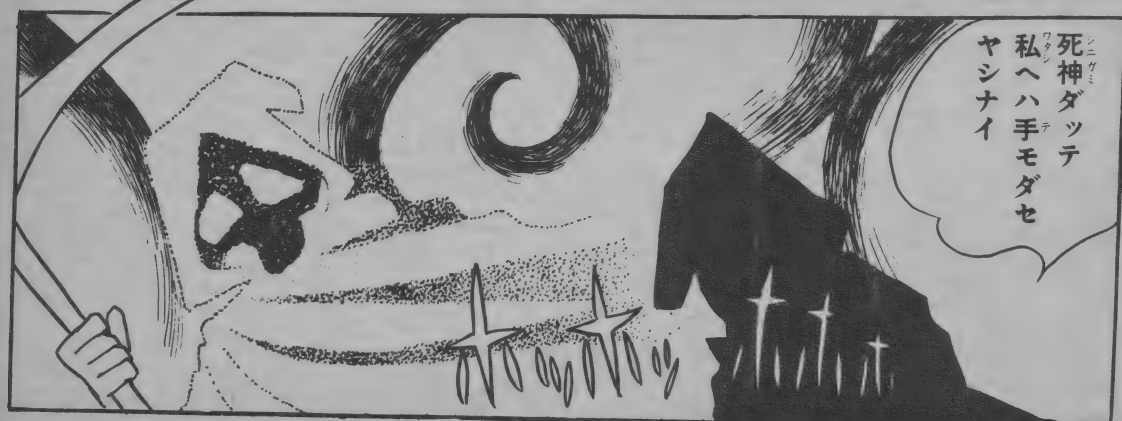
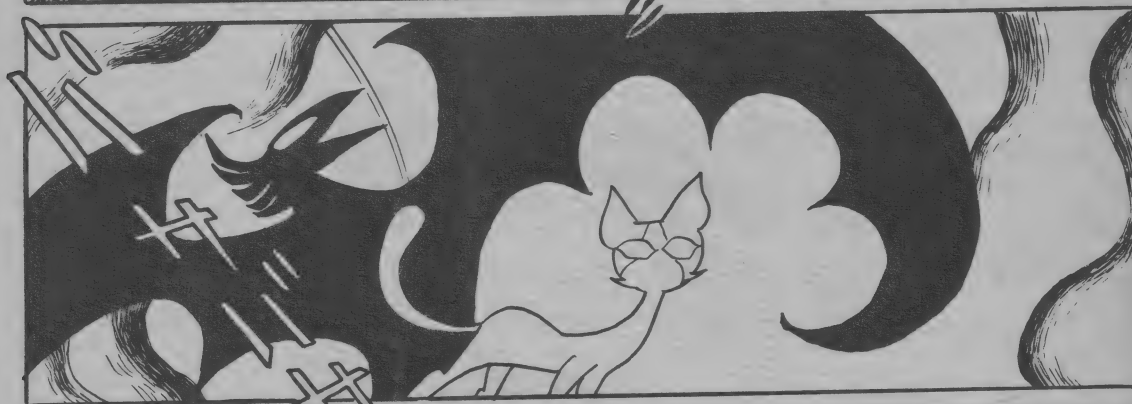
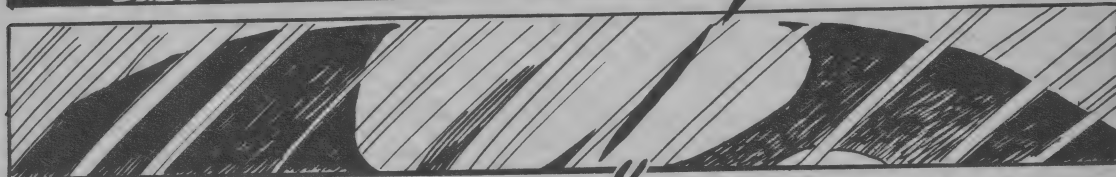
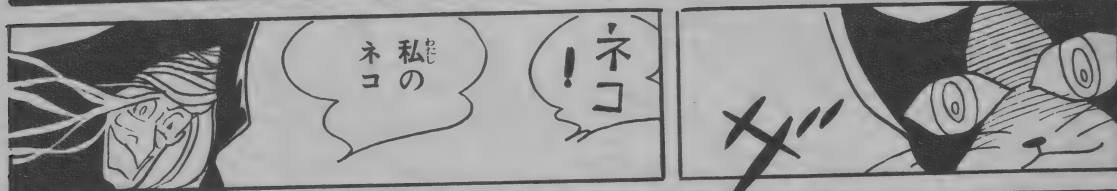
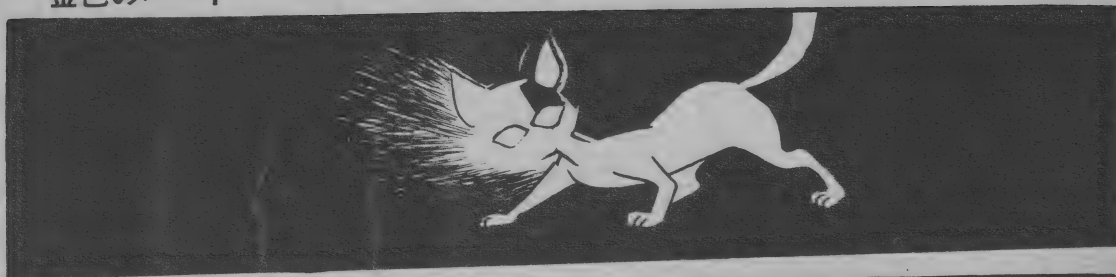
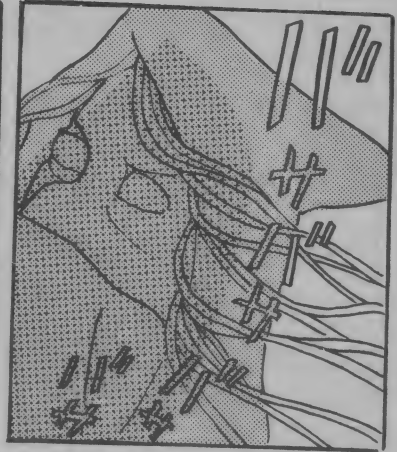
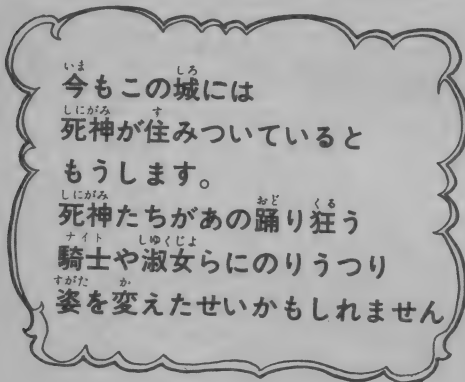
ガラガラガラ
クズレタ瓦ヤ石コロガフタタビ明ルイオ城ニ変ワリ
騎士ヤ淑女ガマタモ妖シイ踊リヲ踊リダス

ソシテアナタワ 死神ヲ金ニスルトキ
金ノ心ヲエルノデス
ごめんだよ

城も騎士も淑女も
わたしゃ興味がないんでね
ヒョオオオオ

私のさがしてるのは金の心じゃない私のネコさ

死神ダッテ私ヘハ手モダセヤシナイ

ネコ!
私のネコ

今もこの城には
死神が住みついているともうします。
死神たちがあの踊り狂う
騎士や淑女らにのりうつり
姿を変えたせいかもしれません

〈おわり〉

1968 7

(ミュータントプロ)

夏がおわりに
近づくと……
深い緑のむこうから
白い馬に乗った
青い騎士がやってきます
幸せをのせて……

こわがらなくてもいいよ
なにもしやしないさ……

ふうん
おじちゃんやさしいんだね
青い騎士？
おじちゃん青い騎士でしょ

幸せをはこぶ青い騎士……って
やつか……
かわったことをいう子だな……

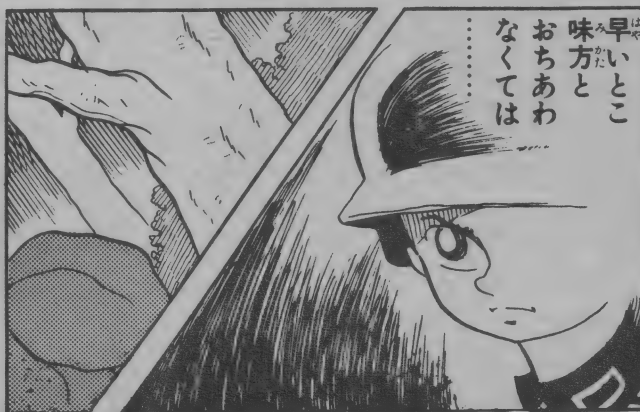
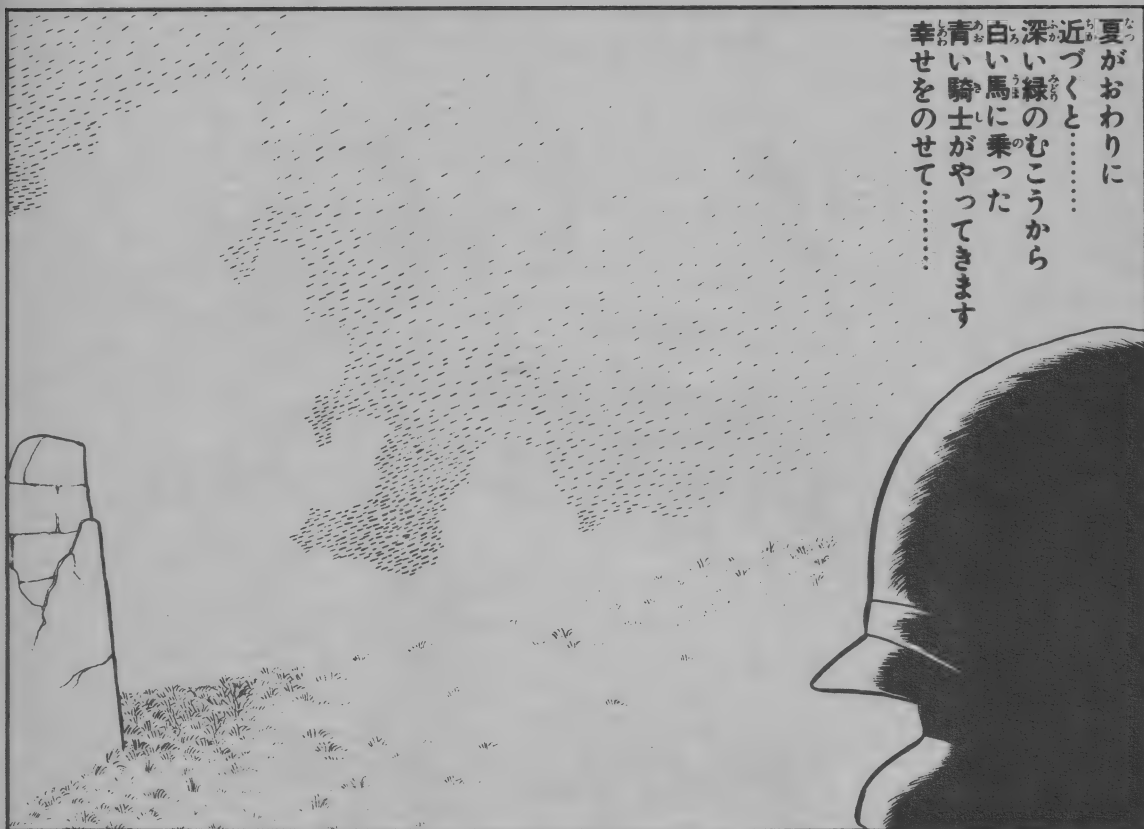
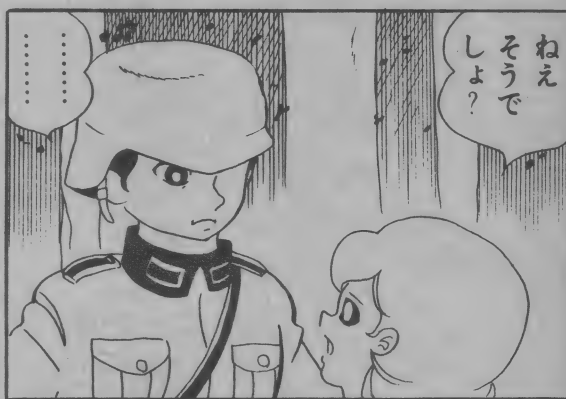
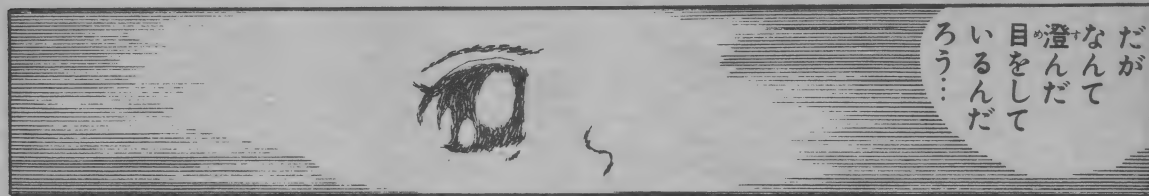
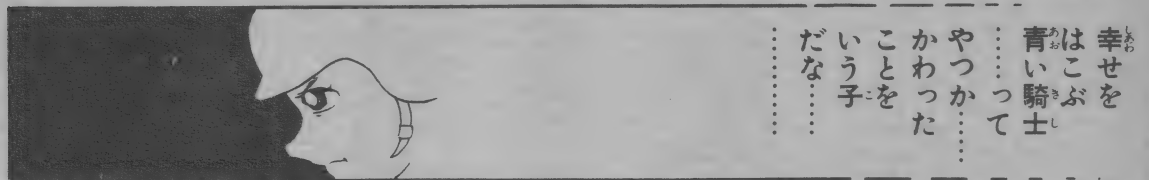
だがなんて澄んだ目をしているんだろう…

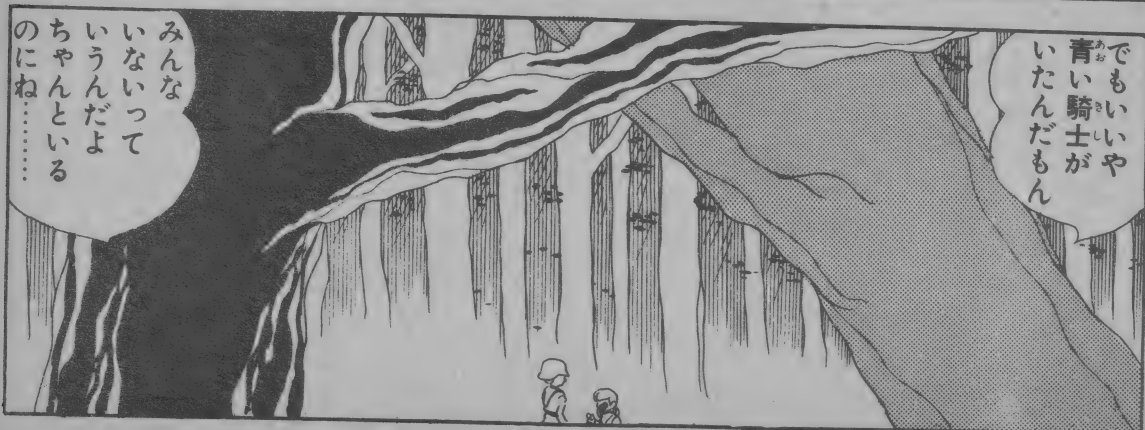
ねえ
そうでしょ？
……

やっぱりいたんだね青い騎士…
きっといると思った

どこにいるの 白いお馬は……？

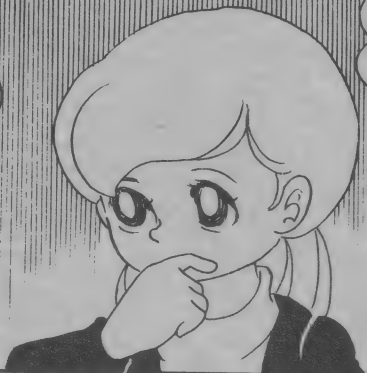
白い馬!?

白いお馬に乗ってきたんでしょ？

そ
そうさ
でもね
白い馬も
役目が
すんだら
帰らなくちゃ
ならないんだよ

帰っちゃったの
白いお馬……
………

めんどうなことになったぜ
完全におれを青い騎士だと
思いこんじまってる………
おれもなんだって青い騎士だ
なんてことを…………
早いとこ逃げなくちゃあな
だが　この子をつれては
逃げきれない………
チッ!
このさい人のことなど
かまっていられるか
アメリカ軍が………
アメリカ軍が
そこにいるんだ
相手は子どもだ
なにもしないだろう
………よし
うまくごまかそう………

いいかい
青い騎士はね
いろいろな人の所へ
いかなくちゃなら
ないんだよ
だから……
これで
お別れだ

ふーん
つまんな
いの……

………
………
………
ダ
ダ

ふりむくな!!
あんな子に
かまっていられるか
しかし………
あんなにすなおな子を
そうだ　おれにも
あんな時が
あったんだ
くそーっ………
このままじゃ
逃げられねえや
つれていってやろう

!!

アメリカ兵だ

ン
ガサ
しまった
見つかったか
くそーっ
イチかバチ
かだ……!
うわあああぁ

おじちゃ……

フーッ……

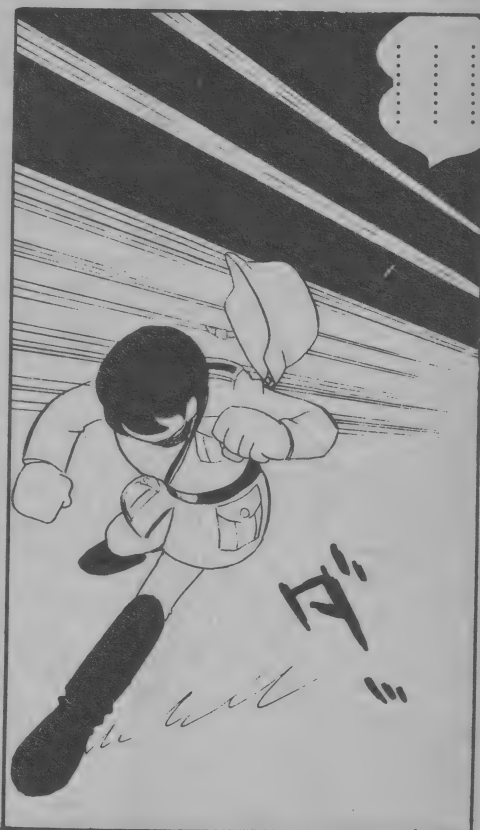
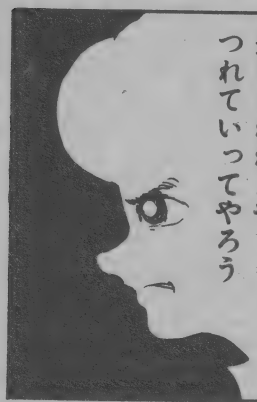
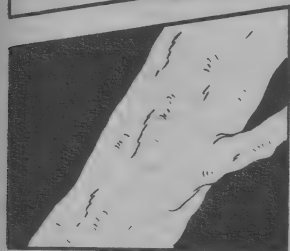
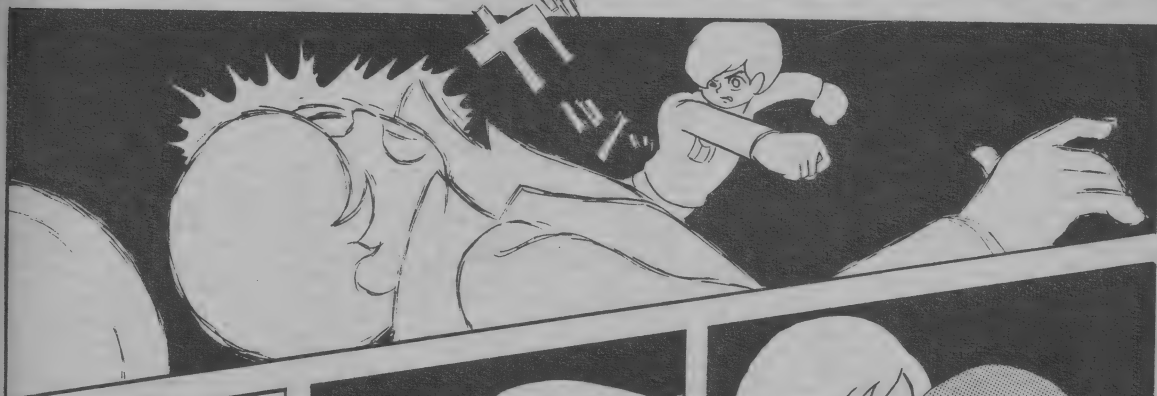
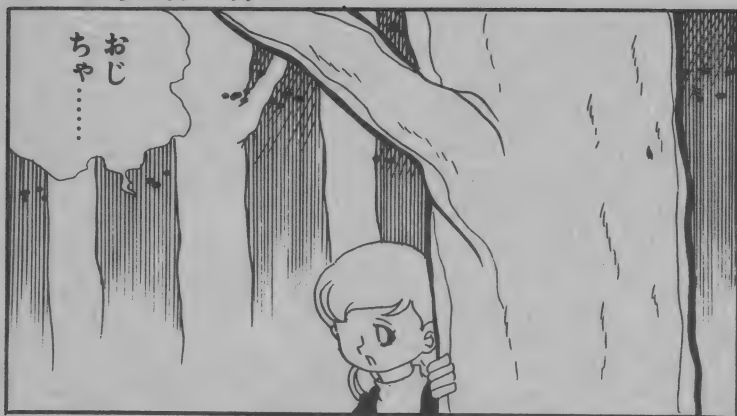
ウッ

あ……あ

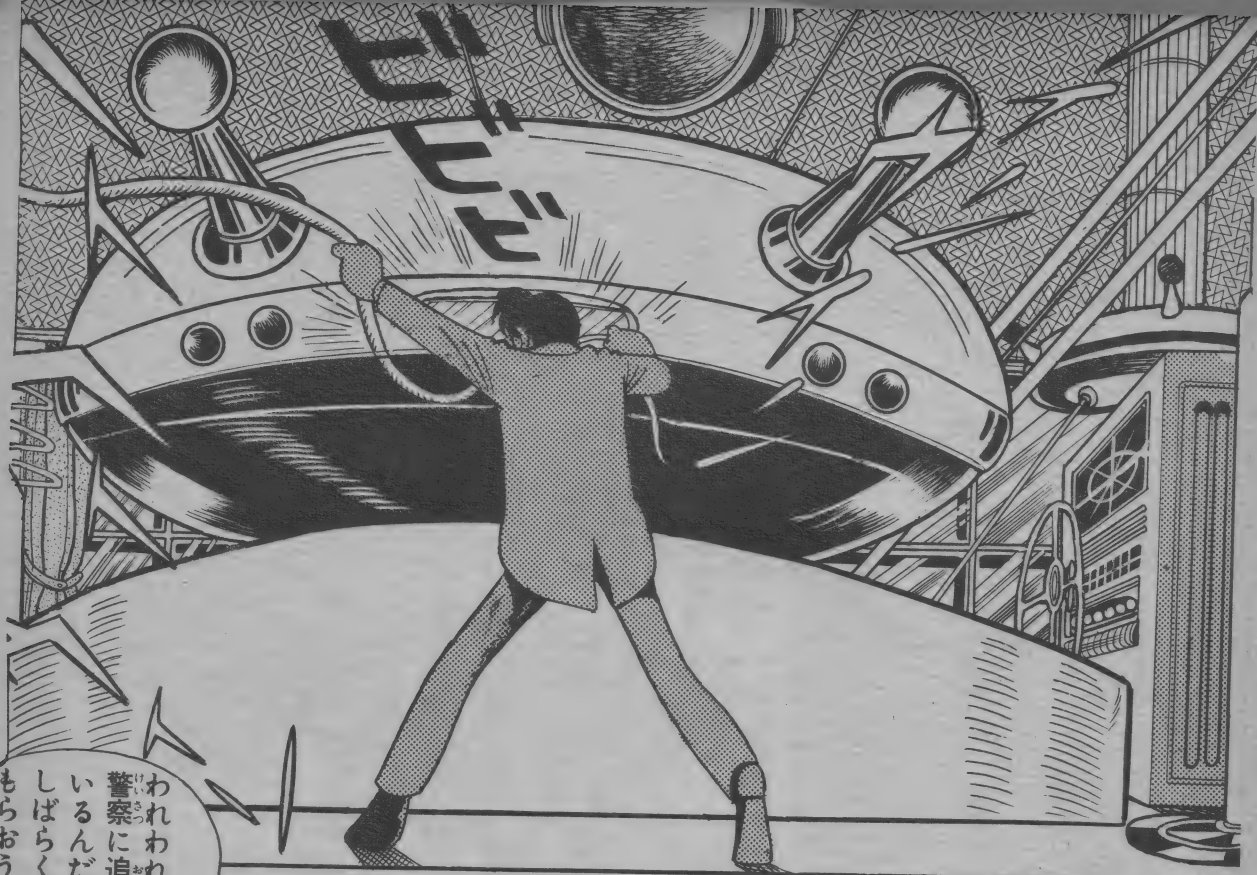
おおいで……

いや……こないで

こないで!!

おじちゃんは青い騎士じゃないっ!!

白い馬と青い騎士 68.7.28.

FIN

(つれづれ草)

ビビビビ
ビビビ
ウッ
おっと静かにしてもらおう
われわれは警察に追われているんだ!! しばらくかくまってもらおう
き……きみたちは……
銀行強盗さ!!
ガタ

ニャ

ものは相談だがきみたちを絶対つかまらない所へ逃がしてやろうか

なにっ！

相談だって……
それでどこへ逃がしてくれるというんだ
過去だ！
たったいま最初のタイムマシンをつくったところだ
それですきな所へ逃がしてやろうというのさ

しかたがない
信用できねえが つかまるよりはましだろう……
ただしおまえもいっしょにくるんだ

それじゃ報酬としてトランク一ついただこう

なんだと!!

いやか……
それじゃつかまるんだな……

ええい くそっ!
この際 奴のいうとおりにしよう……
ボ…ボス

心配するな……
あとで小僧を……

さあ　これで
どうだ
へんなまね
するんじゃ
ねえぜ

フフフ………
これだけあ
れば………

うわあっ!!
こっ ここはどこだ……!?

原始時代だ!! 成功だ

げっ 原始時代だァ…?

おっと動くな!!

ふふふ
逃げようたって
そうはいかねえぜ……

べっ
べつに逃げやしないさ……

おまえにはまだしばらくいてもらわなくちゃ

くそっ
いまに見てろ
残りのトランクもいただいてやる

持ち逃げしようたって
そうはいかねえぜ！
さあ
いけ！
ズ
ズ

うわーあ
こ　これはなんだ!?
ズ
ズ

ズズズ
ポロッ
ドギュー
ドギューン!!

ギューン

ウィィン
グーン

フフフ……………
これで全部おれのものだははは

警察のものだが
このトランクはどうしたんだ?
あっ!!

おまえが銀行強盗の犯人だな
さあ警察にきてもらおう
ちがう!! おっ おれじゃないんだ
そんなばかな……

アングラ男

作画集団 置田 進

（作画集団）

ポトン
春雨じゃ
ぬれていこう
チーッ
シト
シト
あっ
雨だ………
ひょっとしたら
カミナリさんの
オシッコかな!?
○○は便利
だね
雨はやんで
スグ虹が
シューウ
フーテン
……ちがう
フーセン
まってくれー

カァ〜

パッン
はっ

ラーメン

ドシーン

シクシク
よく泣くな
もらしたみたいな感じ
カラスとともに去りぬ

わーん

ギャー
クジラちゃんだ
たちけて!
バチャ
バチャ

フーッ
びっくりした
でも
こんなところに
いたら ミイラに
なっちゃうよ

こうすれ
ばいい!
一難さってまた一難……

ザザザザ

THE, END

これで
「アングラ男」の
試写会を
おわります
END

GRA'COM'中部
一番電車No.2より

小川　茂

人工天使

（ぐら・こん中部支部）

あ

あ

FIN

わるもの君　ほか　四コマまんが

神保あつし

（ファンタスト）

わるもの君

きのう
どうして
そうじ
さぼった
わけをいえ!!

じつは
デイト
でして
………
へへ……
うそつけ!!
だれが
おまえと
フン

基本的人権の
問題とか
いってるぜ
へえー

わるもの君

スッパ

センコッ

ABCD
…………………
ニコニコ

きのうは
ズック
はいてな
かったんだ…
ヒリヒリ

わるもの君

わるもの君「靴がなる」

わるもの君

教訓

この矢をひとりで折ってみよ

折れまちぇん

兄弟三人で折ってみよ
折れまちた

三本つかうとこを一本で用をたす
結局頭つかえってこと!!

大国主命の袋

先生袋の中はなにがはいってるんですか
たぶんお米でしょうね

米がはいってるとすると…

はし
しゃもじ
はんごう
ちゃわん

きのうはありえない答をいってしまってどうもすいません

武士道残酷物語

無題

〈おわり〉

よわむし ゴリラ

ガンケ オンム

(武蔵野漫画研究会)

オレが動物園にきたのは
まだほんの小さいとき
だった

いつもほかのサルたちに
いじめられていた

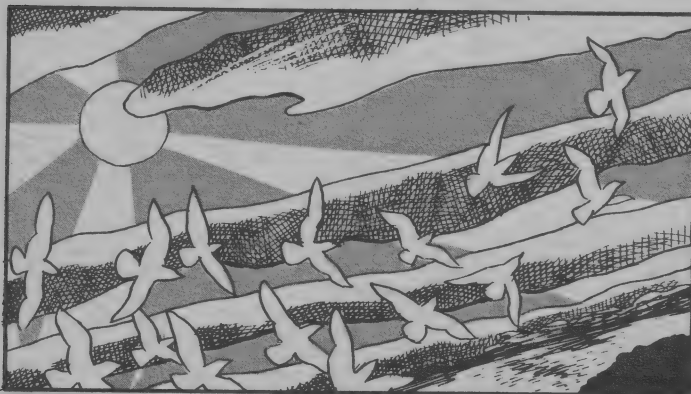
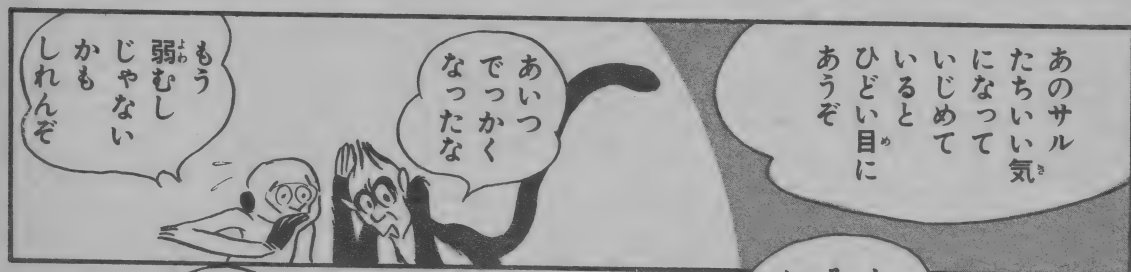
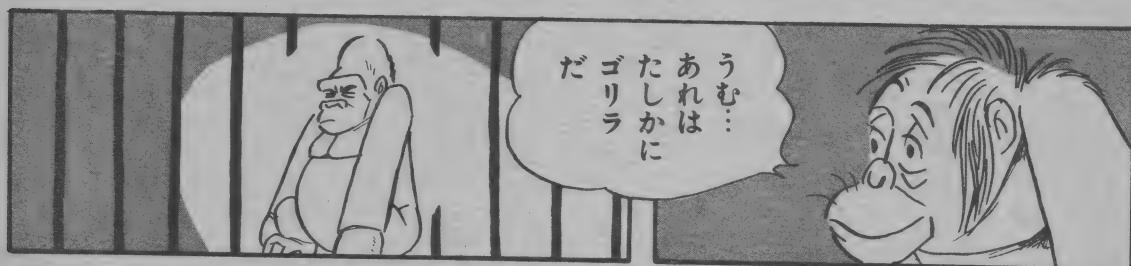
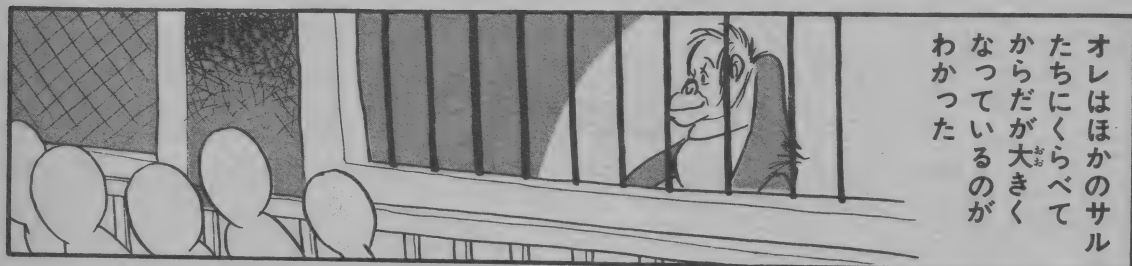
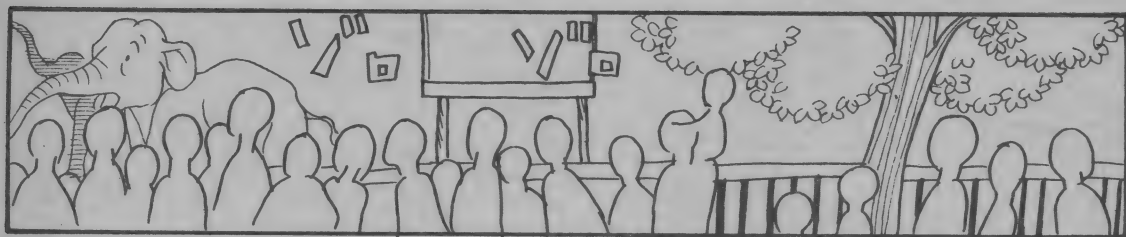
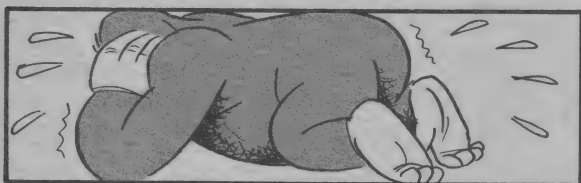
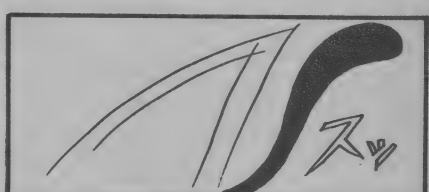
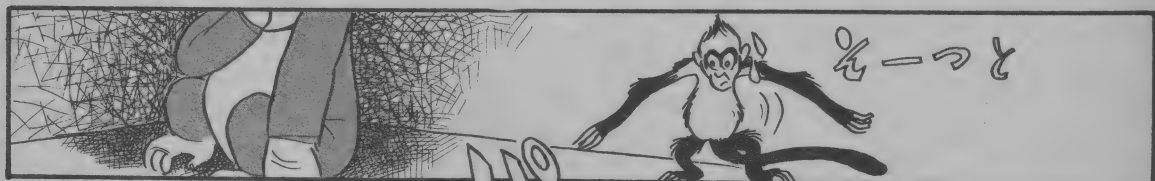
オレは子どもなのかもう
おとななのか…………
強いのか弱いのかも
わからなかった

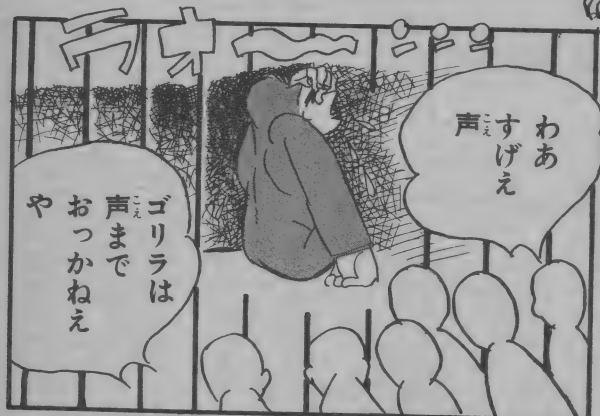
だが人間という動物は
時々顔をだしてはとても
オレをかわいがって
くれた

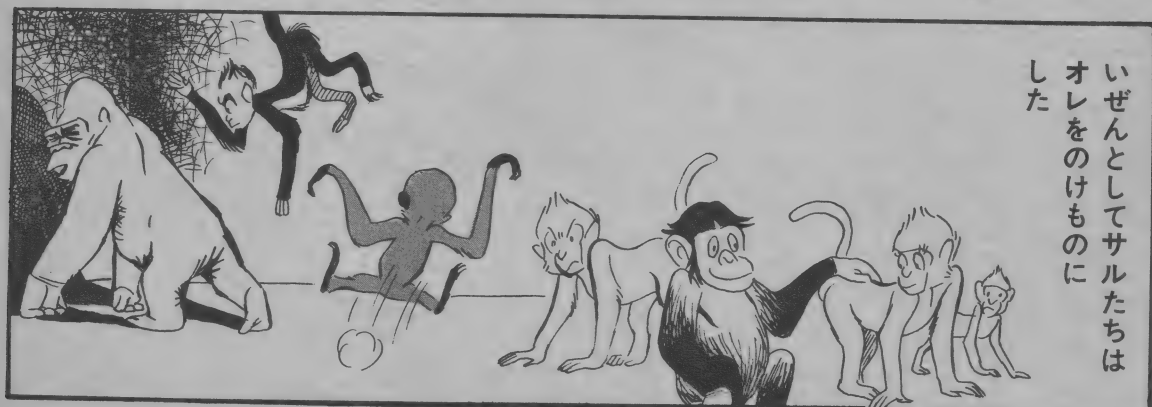
おまえは
この動物園に
一匹しかいない
貴重な
ゴリラだからな

ゾロ
ゾロ
オレはほかのサルたちにくらべてからだが大きくなっているのがわかった
うむ…あれはたしかにゴリラだ
あのサルたちいい気になっていじめているとひどい目にあうぞ
あいつでっかくなったたな
もう弱むしじゃないかもしれんぞ
ようすみてこいよ
おまえいってこいよ
ちぇっしょうがねえな
あっあのサルちょうしにのるとひどい目に…

サルたちは動物園育ち
なのでゴリラなんて知ら
ない………
オレをすっかり弱いも
のと思いこんでしまった

だがひっぱたかれたり
けとばされたりしても
前のように
いたいとは
思わなくなった

オレは考えた……
考えるゴリラ

からだが大きくなったのはきっといじめられてもケガをしないためにだろう

ケガはしなくなったがいつもびくびくしている臆病な自分がとてもかなしかった
クスン

ウオーー
わあすげえ声
ゴリラは声までおっかねえや

いぜんとしてサルたちはオレをのけものにした

ガヤ
ガヤ
どうしたんだろう このごろ ぜんぜん姿をみせないや

ハハハ
ほかのサルたち ゴリラを こわがって すみに よってら
あはは

しばらくこなかった あの人間が はいってきた
ガチャ

おまえは おとなしい ゴリラだ なあ

だけどもう べつにしないと 危険だから な

オレはこのいじのわるいサルたちと別れると思うと　うれしくてしょうがなかった

さあ
ここだ

おや
弱むしな
ゴリラじゃ
ないか

ク

でかい
ずうたい
して　いつも
サルどもに
いじめられて
るじゃないの

いったい
どうしたっ
てんだい

だって
オレ
弱い
から

弱いい？

なにを
ねぼけて
るんだい
おまいさんは
ゴリラ
なんだよ
ゴリラ

あの
巨大なキバと
つめをもった
ヒョウ
でさえおまいさん
にはかなわない
んだよ

スック
そうか
オレは
強いの
か

オレはこのとき　はじめて
自分がなんであるか
わかった

あっ
こら
まて

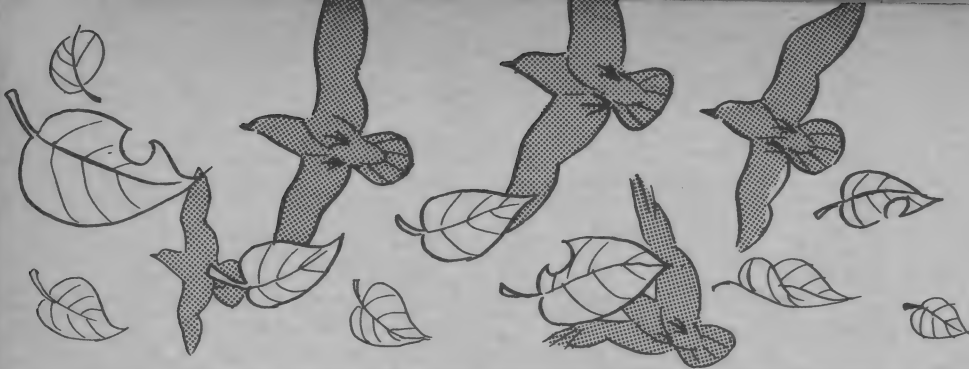
こりゃあ
えらい
ことに
なるわい

どこに
いく

いや……

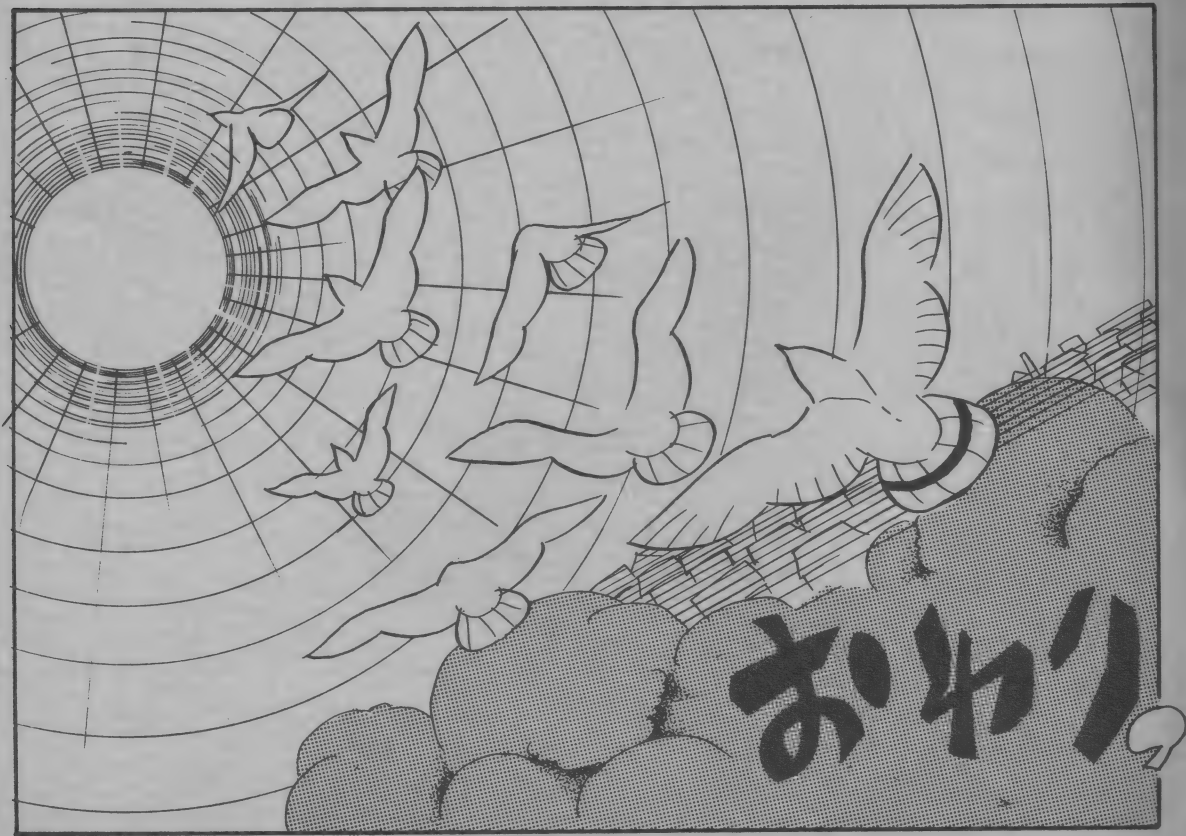
やっぱりオレには
できなかったよ
このやろ
なんで
もどって
きやがったんだ
でていき
やがれ

おおそうか
そんなに
このサルたちと
離れたく
ないのか

そんなわけでまた　このサル
たちといっしょに
くらすことになった

サルたちは
あいかわらず
オレを
いじめる
……………
が　オレは
おこらない

なんせ
強いちゅう
ことは
気分のいい
もんじゃ

1988/17

おわり

第一回COM同人誌賞発表

〈選考委員〉
石森章太郎
峠あかね
COM編集部

■第一回同人誌賞
該当同人誌なし

■同人誌特別奨励賞（各一万円贈呈）
「ふァん」（武蔵野漫画研究会）東京
「墨汁三滴」（ミュータントプロ）東京

■同人誌特別努力賞（各三千円贈呈）
「ぐるーぷ」（ぐら・こん関西支部）東京
「一番電車」（ぐら・こん中部支部）愛知
「すーりーる」（法政大学漫画研究会）東京

〈選考経過〉　ことしになって編集部によせられた同人誌（肉筆・コピー・オフセット・孔版等）は二百余点にのぼり、その中から本誌四号の「同人誌特集」で掲載された「墨汁三滴」「ふァん」「陽」「ファンタスティック」「ストーリー作品集」「らくがき」「フェニックス」「花」「ミロ」「すーりーる」の十誌にしぼり、選者に検討していただいた。（編集・内容ともにできのよい同人誌ではあるが、セミ・プロの多いもの、現在休刊中のものは除外した）
　しかし、この十誌も一長一短があり、選者の意見も一致せず、結局、今回は「受賞対象誌なし」ということに決定。『COM』の別冊「ぐらこん」で、受賞誌のダイジェスト版を掲載するには至らなかった。
　しかし、該当誌はでなかったが、編集及び作品内容・組織力・ユニークさという点で、見すごしにはできない同人誌もあり、特別に奨励賞・努力賞を設け、各グループの努力を讃えることになった。来期の成果を多いに期待したい。
（COM編集部）

　該当誌がなかったことに対しての失望はほとんどない。上位にランクされ、とりあげられた五誌は、いずれも、何らかの意味で、同人誌としての確たる価値を生みつつある。トータルな意味で、現時点におけるまんが界の貴重な収穫であることに、まちがいはないと考える。
　「ぐらこん」一号のあとがきでのべたように、当初のプランでは、同人誌賞受賞の同人誌を、そっくり再録するか、または「ぐらこん」を受賞グループに開放し、編集をゆだねるかの方法をとりたかったわけだが、このような形での発表になった。
　即ち、各同人誌に掲載された作品の抜すいである。
　グループ活動や編集内容・カット等、同人誌のもっている多面性を紹介しきれなかったことに心残りは感じる。しかし、第一回としてはできすぎたともいえる。次のチャンスには、本年度以上の成果を期待したい。
▼機関誌のできばえでは、「ふァん」と「墨汁三滴」を推す。伝統をうけついでつくられている。本格的な肉筆回覧誌といえる。
　第一にかうのは、その情熱だ。リーダーがしっかりしていることと、参加しているスタッフが協力的であることが、誌面からよくうかがえる。同人誌をつくるための方法論にも安心感があり、コンスタントな活動状況も好ましい。
　「ふァん」は、武蔵野漫画研究会の発行。会員数約十名。スタッフの個性が、のびのびと発散できている制作態度に、同人誌特有の世界が型づくられている。特に編集手腕を高く評価しておきたい。つくることより見せることにポイントがしぼられており、憎い心得であり、憎い技術。
　「墨汁三滴」は、ミュータントプロ発行。会員約十五名。途中下車のつづきものが何点かあったのが難点。しかし、そのできばえは、「ふァん」に劣るものではない。特にイラストの使い方は抜群。
▼組織活動では、ぐら・こん関西支部の活動ぶりをとりあげた。やる気がみなぎっており、具体的な手段ももちえた。関西人のしぶとさがあり何かやりそうな気配たっぷりである
　同じく、ぐら・こん東京支部にもぼつぼつ盛りあがりがでてきた。
▼「一番電車」は、ぐら・こん中部支部のもの。「一番電車宣言」に始まる、このグループが指向するものはやはり新しい何かが生まれるかもしれない可能性を秘めている。方法として、やや前衛的な道を選んだその意識をかう。望むのは、今後どういう方法で活動を拡大していくかを、慎重にやっていってほしいこと。
▼「すーりーる」は、法政大学漫研発行。同人誌を語る場合、「がくまん」を見落しにはできない。それだけの価値は充分にある。ストーリーまんがが大半を占める同人誌活動の分野で、一コマ・四コマの世界と本格的にとり組む、主流派の拠点でもある。がくまんを支える一つの力としてOBの存在も忘れることはできない。ある意味では、OBの協力が決定的ですらある。今後の課題は、どこまで進むかということ。
▼変わった型として「まんがのむし」（全日本マンガファン連合）と「若草」について記しておきたい。
　前者は、描き手としてよりは、読み手意識が前面に押しだされており特にマニア的性格が強いもの。後者の活動は、同人誌のあり方の一つの頂点をめざすもの。いずれも、同人活動に必要なものであると痛感している。
（峠あかね）

作品評　石森章太郎

▼「よわむしゴリラ」
十六歳という年令のわりには、絵もアイデアも〝達者〟である。が、それだけにハッとするような新鮮さ、若さがない。それが心配な作品だ。

▼「わるもの君」
強烈な個性と常に四コマモノに取り組んでいる意欲をかう。しかし、まだどれもアイデアが〝生〟のままで、ヒネリが足りないような気がする。原石の魅力。

▼「人口天使」
イラスト的な画面構成とその絵にマッチした童話的アイデアでなかなか楽しい。
ただ、この種の作家は早い時間に〝完成〟して枯れてしまう危険をもっているので、できるだけ長い時間〝若さ〟を保つことに努力してもらいたい。

▼「アングラ男」
こういうのをアングラマンガというんだろうか？　自分の楽しみのためにだけ描いている、ということだけはよくわかる。従って、読者は生焼けのセンベイでもかじったような読後感になる。絵・アイデア・構成ともにもうすこしよく整理すること。

▼「逃がしの報酬」
絵はなかなか達者だが、新鮮味に乏しい。アイデアも、構成・コマ割りも中途ハンパな感じがする。こういうショート・ショート風のお話は、登場人物の要領よい説明と、オチのおもしろさの強調に全力を集中すべきであろう。

▼「白いお馬と青い騎士」
絵の勉強をもっとしてほしい。登場人物の感情が、その表情にでていない。それとセリフ。もうすこしうまい〝いい廻し〟にすること。テクニック不足が、モチーフを完全に殺している作品だ。

▼「金色のハート」
なかなかムードがある。セリフがうまい。このお話に関しては、絵柄もまた成功しているといえるだろう。ただ、この手の直線的な絵は、まんがを描いているものなら誰しも一度は描いてみたくなるし、またそれだけに描きやすいといえる。ボクなども一時熱中したものだ。とにかく、自分のモノになるまでたっぷり描き込んでほしいと思う。

作品評　峠あかね

▼「よわむしゴリラ」
達者な人である。達者が何より。展開の方法に甘さを感じるが、弱者から強者へと転向するゴリラの主感が、あざやかに描かれている。強いと思うとオコル気にもならない、というユトリ精神をよくつかまえてある。

▼「金色のハート」
うまくなった。ラストのオチも気がきいているが、ラストのオチのために描いたような作品。やや気になる。

▼「わるもの君」
四コマ目の使い方を心得ている。人間を見つめる目に、やさしさもある。あとは飛躍について、つっこんでほしい。

▼「逃がしの報酬」
ページのわりに発展性が少ない。絵もていねいでいいが、次第に自分の絵をつくっていってもらうことを望む。

▼「アングラ男」
同人誌特有の遊び精神が旺盛だが、いささかつっ込み不足。自分が楽しむ前に、読者が楽しめるようになればいいのだが。

▼「白いお馬と青い騎士」
作者のいわんとすることはストレートにわかる。ラストの一コマは、もう一ヒネリして、間接的に表現した方が効果的だろう。話術の研究を。

▼「人口天使」
ただ一つある「あ」という文字が、効果的に使われている。木の成長で年月を表現しているのもよくできた。

扱かった作品は、いずれも同人誌上に掲載されたもの、という前提で見ていただけると幸いである。
同人誌という場所で、適当に手をぬいてやりすごした甘さがあるし、新しいものをやってみたいという意識もある。
その両方を含んだ作品として、今後に残された問題もたくさんあると思うが、何よりも、こういう地味な活動をえいえいと続けている人たちの、その努力をくみたい。あせらず、コツコツとやっていくことを切に望む。
個々の作品については、読者の方が見た限りの評価を下してくれることを、お願いしておく。

まんがごっこ族

峠あかね

実にたくさんの同人誌を拝見することができた。先に「COM」四号誌上で行なった「同人誌特集」の際に集まったものと、その後送られてきたものをあわせると、これはまた何という膨大な数であったことか。

すでに、同人誌の歩み・沿革・紹介については、四号の特集でその概略をひろいがきしておいたので重複はさける。

その際、特集の最後に「同人誌のつくり方」的な記事を箇条がきにまとめておいたところ、その後あちこちのグループから、質問やら相談をうけるハメにおちいった。

同人誌のもっているさまざまな問題について、直接ぶつかることにより、さらに同人誌のあり方のいくつかを考えねばならなくなっていた。

前回私は、この現象を〝空前の同人誌ブームである〟テナふうに表現した。それはそれで誤まりではなかったが、いささか正確さに欠けたように思えるので、多少の補足をしておきたい。

今日は、いくつかの優れた同人誌と、多くの、決して優れているとはいいかねるエセ同人誌の、混合ダブルスによる空前の同人誌ごっこブームである――。

同類相和とでもいうか、比較的力の似かよった人同志が集まって、いくつかのグループができていく。従って、力のある人が集まりやすいのも事実だが、力のない人同志が集まりやすいのも事実である。各グループは、そのギャップをどう埋めたらいいのか。

現状では、そのギャップを埋めきれてはいない。そして、少数の優れた同人誌と決して優れてはいない多くの同人誌とを同時に生んでいる。

今回、目を通した二百余点にのぼる同人誌群は、それに参加した人たちの実にとうとい血と汗の結晶であろう。そして実に多くの〝徒労〟もあった。

せんじつめれば〝方法論のなさ〟につきる。そして、方法論を決して探そうとはしていない。

同人誌づくりを懸命にやっている何種類かのグループ。その対極にある、同人誌ごっこで自己完結していくたくさんのグループ。

まんがの送り手にもなりきれず、まんがの受け手にもなりきれず、その中間で、まんがをサカナにひまつぶしをしている、新人類〝まんがごっこ〟族。

それがたまたま同人誌という世界を通じて、氷山の一角のようにポッカリと浮かびあがる。

これでいいのか、ほんとうにいいのか!!

私個人の気持ちからいえば、これらの種族を否定したい。彼らは、決して同人ではなく、異人にすぎない。

結局、まんがに対する誤解があったり、ほんの少し知らないことがあったりするだけのことで、その全てを否定することはできない。そういう人達に、適確なサゼツションを与えられない私たちにも責任があると思うので、いっしょに考えてみたいと思う。同人と異人を見分ける為だ。

最近、まんが専門の喫茶店などがあったり、タマリ場的な所があるので、でかけてみてほしい。その一隅で、数人がとぐろを巻いて口論している場面に、よく出くわすと思う。

この口論組の中に、同人と異人がゴチャまぜになっている。

「手塚が、石森が、永島が」と、えらそうにしゃべっているのが異人。いわゆる、いばり族である。「手塚先生が、石森さんが、永島さんが」と、慎重に話しているのが同人。

まんがを大極的に見つめようとすれば、まんがのもつ歴史の重みを知るはずだ。同じ世界に住もうとする一員としては、どうしても先人の業績を認めなければならぬ点がいくつかある。その価値を知って、初めて自分の進むべき道をつかめる。

自分がどのへんを目指しているのかを、よく知りえない連中に限って「手塚が」などと、呼びすてて平然としている。アタシャ、コノ神経ガワカランヨ。自分をなに様と思っておいでなさるのか。

アンチ居士というのもいる。誰かがま

んがについて何かいうと、必らず「いや、そうじゃない」と、いい切る連中。いったい、何がそうじゃないのかを具体的に指摘することができず、それがそうじゃないとしたら、どうなんだということをつかまえもしないで、ただ反対のための反対をやっているヤカラ。テーゼを知らないで、アンチテーゼをふりまわす。

理論がないのに理論ぶりたがる。ええかっこシイ。ナンセンス。

一種のまんがゴロである。この種族は、だれそれの作品は盗作だとか、だれそれのは、だれそれのイタダキだ、とかを発見する能力は抜群であるにもかかわらず、作品の良さを発見する能力がゼロに等しい。のら犬がハキダメをうろつく姿に似ている。あわれ。

同人ジプシーという種族がいる。いばり族や、アンチ居士のなれの果て。あっちこっちの同人会に、首をつっこんでいる連中。参加している会の数を増やして自己満足している。

やる気があれば、二つ三つの会に参加するのは大切なことだと思う。井の中のカワズにならないための、必要な手段といえる。それ以上増えたら、これはもう同人屋になることを職業にするしかない。

あっちこっち首をつっこみながら、自分の定着する場をもたず、でたりはいったりして遊んでいる——とは、なんと時間のあり余ったんであることか。こういうのに限って、どの同人会でもろくなことをやっていない。

同人誌上で、最もハバを利かしているのがつづき屋。

たかがです、たかが三〜四ページの作品を同人誌上に発表し、まとめることもできないままに放り出して、以下次号とか、つづくとかしか処理できないとは何ごとですか!!

短編なら短編なりの、長編なら長編なりの方法論をもちなさい。やる気がなかったり、時間がなかったり、事情は人それぞれあるでしょうが、同人誌に三〜四ページの連載を発表することに、いったいどんな必然性があるというのです。それは誠意の問題だ。

郵便番号制度。悪くはないが、そのため一冊百五十円の番号簿を、全家庭に売りつけるという気にいらぬご時世。そのご時世に、〃つづく作品〃でぶ厚くした回覧誌を郵送している悲しさ。つづき屋たちの作品で、何らかの利益をあげているのは、郵便屋さんだけだとは思いませんかねえ。

会長族というのもいる。私流の分類で恐縮だが、複数の中で仕事をする人間は、四つのタイプにわけられる。人に仕事をさせるのがうまい、リーダー的要素の人。人の片腕となった時に力を発揮する、補佐的要素の人。人に使われるのがうまい実戦的要素の人。何をやってもダメな人。

いいリーダーのいるグループには、いいメンバーが集まる、てなことを前に何度か申しあげた。その逆もありうる。

同人誌が多い。多すぎる。それはとりもなおさず、会長になりたがっている人が如何に多いかということ。自ら会長たらんとする主体性は尊重します。しかし、それと会長としての能力があるということとは別問題。

同人活動に参加する人。自分はどのタイプを選んだら最も自分を生かせるのか、知っておいたらいかが……。

暴発型グループというのもある。射程距離が判らず、標的が定まっていないのに、引き金をひきたがるグループ。

なぜ会をつくったのか、なぜ複数の人員が必要なのか、何をやったらいいのか等々を、よく確かめない連中。

目標とはたとえば「時間つぶしのため」であっても構わないと思う。目標があることが大切なのだ。結果的に「時間つぶしとなってしまった」のではいけない。

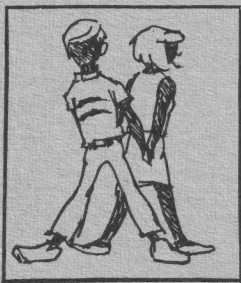
また、「目標が会誌をつくる」だけでも不十分といえる。最終的には、作ったものをどうするかということだ。

肉筆回覧誌を、出版社や作家のところへもちこんで、半年以上もほったらかしているのもおかしい。その間、他の会員に回ることはない。何のための回覧誌か。

——というようなことを列挙していったらキリがない。前回の分類によると、戦後第三期の同人誌時代。いくつかの価値ある運動と、いくつかの決して大極を変革しないで終わる大いなるマスタベーション運動の両者が共存する現在。

ジャーナリスティックな感覚で、ブームだと喜こんではいられない状況。それが、ことしの選考感想の全てだ。来年同じことを感じなければいけないかどうか。

……顔を洗いなさい。(43・8・5)

筆者紹介（ひっしゃしょうかい）

■峠　あかね
本名は森柾。岐阜県飛騨高山出身。昭和十六年三月十日生まれ。三十七年ごろ、中部日本児童漫画研究会を組織「ぐら・こん」を発行。まんがの資料づくりに努力。現住所は、東京都北多摩郡久留米浅間町一の一一の六

■菅野　誠
東京都出身。昭和二十五年六月七日生まれ。現在、育英高等専門学校三年。ミュータントプロ会長。現住所は、東京都三鷹市野崎三〇一

■向後つぐお
本名は向後次男。東京都出身。昭和二十四年十一月四日生まれ。四十一年、永島慎二氏のアシスタントを経て現在はフリー。小さな仲間所属。現住所は、東京都北多摩郡久留米町字南沢一二八五　小林方

■ながしまあきら
本名は長島章。東京都出身。昭和二十五年十一月十六日生まれ。現在、都立杉並工業高校三年。来春写植研究所に就職予定。武蔵野漫画研究会会長。現住所は、東京都練馬区上石神井一の三一

■しまあきと
本名は細井雄二。埼玉県出身。昭和二十五年九月二十七日生まれ。現在、中野電波高校技術科三年。ミュータントプロ所属。現住所は、東京都三鷹市大沢三の一の二三
来春、江波譲二氏のアシスタントになる予定。

■新宅善光
広島県出身。昭和二十五年九月二十日生まれ。四十二年春上京、井上智・久松文雄両氏のアシスタントを経て、現在はフリー。グループエンゼル会長。現住所は、東京都練馬区下石神井二の一四〇九　渡辺方

■置田　進
神奈川県出身。昭和二十七年七月十七日生まれ。現在、川崎技術高校機械工作科一年。作画集団所属。現住所は、川崎市木月三の一〇三

■小川　茂
愛知県出身。昭和二十四年八月十日生まれ。今春、名古屋市立工芸高校デザイン科卒業。ぐら・こん中部支部支部長。現住所は、愛知県春日井市下屋敷町一七三

■神保あつし
本名は神保厚。新潟県出身。昭和二十四年十月一日生まれ。今春、新潟県立三条高校卒業。四月上京東京デザインカレッジ漫画部へ入学。ファンタスト所属。

■ガンケオンム
本名は内藤祐生。北海道出身。昭和二十六年七月八日生まれ。現在攻玉社高校二年。武蔵野漫画研究会所属。現住所は、東京都大田区田園調布七の五五の一

（順不同）

■同人誌優秀作品集■

ぐらこん　もくじ

第2回COMまんが同人誌賞募集！

〈応募規定〉

■『COM』編集部では、全国のまんがグループ活動の躍進をはかるため、年一回、全国のグループから、肉筆回覧誌その他のまんが同人誌を募集し、その中で優秀な同人誌を生みだしたグループに「まんが同人誌賞」を授与いたします

● **応募資格**＝代表者が，同人誌発行所在地のぐら・こん支部（COM42年3月号参照）に入会していること。ただし、ぐら・こん支部が結成されてない地方の方は、競ってぐら・こん支部長に立候補してください。ぐら・こん支部長立候補の受付は常時おこなっています。

● **賞**＝掲載作品、編集内容、活動状況が優れた同人誌一誌を選びCOMまんが同人誌賞として賞状および記念品をそのグループに贈呈いたします。

● **選考委員**＝石森章太郎、峠あかね、およびCOM編集部。

● **締め切り**＝昭和44年6月30日までに同人誌（肉筆回覧誌をふくむ）を送付のこと。なお、返却用の切手同封のこと。

● **発　表**＝昭和44年COM9月号誌上。

宛先＝東京都豊島区南池袋1の20の1　横田ビル　虫プロ商事出版部　同人誌係

GRAND COMPANION

5